

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490600022		
法人名	有限会社 ふくすけ		
事業所名	グループホーム ふくすけ 花水木		
所在地	大分県臼杵市大字戸室字長谷1135番地の1		
自己評価作成日	平成22年11月25日	評価結果市町村受理日	平成23年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ap.oita-kaigo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4490600022&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成23年1月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は認知症はさみしい病氣、一人一人ゆっくり利用者様にあわせよう。をスローガンのもと、認知症は脳の病氣で一人一人の個別ケアを明確にして、ラストステージを彩り鮮やかに送って頂きたいとケアの質にこだわり邁進しています。また、認知症により家庭生活において家族等のいろいろな状況により、ふくすけで生活をしていくことを選択された入居者が今までの家庭生活により近い状態で生活していただくことはもちろん大切ですが、私たちは以前の家庭よりこれからの生活がもっとご本人にとってより充実しその人らしく生活できることを第1に考え一人ひとりを大切にしていきたいと思っています。それとともに地域の方々・民生委員の方々等と運営推進会議においても連携をとっていきます。医療に関しては、協力医院の先生と連携をとり、医師会病院が近隣にあるため緊急の対応ができることも大きなメリットとなっています。今後も皆様に理解をしていただけるなじみのあるグループホームとして地域に根ざしていくように努めていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1)職員が、質の向上に意欲的で、チームワークがよい。「日中の良いケアがよい眠りになる」と、1人ひとりの気持ちに配慮した自由な生活支援をしており、お互いに支え合うケアを実践している。
2)1人ひとりの習慣や楽しみごとにあわせて、喫茶店や外食、飲酒や買い物など、戸外に出かける機会を積極的につついている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時(申し送り)に出勤全職員にて理念を復唱し、日々利用者様に関わる際、職員全員で理念を共有し、理念の実践に取り組んでいる。	毎朝、理念と年間スローガンを唱和し、職員全員で理念を理解し、具体的に実践していくことを意識しながら、日々のケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩や買い物等に出かけ地域の方々とは挨拶を交わしたり関わりを持つようにしている。小学校の一斉下校時施設前の歩道に立ち子供たちと挨拶を交わす等行うようにしている。	地域の清掃活動や行事などに参加したり、小学校の一斉下校時に見守りを行うなど、積極的に関わりを持つようにしている。散歩や買い物を通して、コンビニや介護施設などと、日常的に交流ができおり、協力関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者だけでなく職員も地域の研修、会合に関わりながら、認知症ケアの啓発に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の運営推進会議で取り上げられた事項について、その経過を報告している。施設での困難事例等もプライバシーは守りながらも各職種からの意見を頂きケアに反映させている。	定期的開催し、事業所の現況報告や困難事例などについて報告し、出された意見を日々のケアに活かしている。また、委員を通して地域住民の協力も得られている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市職員にご参加頂き、困難事例や、不明なことはその都度連絡し助言を頂きながら、連携を取っている	市の担当者には、困難事例や事故などの相談を行ったり、事業所の取り組みの報告や、市主催の研修会や行事の参加など、積極的に連携をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者が外出しそうな様子を察知したら、可能な限り止めるのではなくさり気なく声をかけたり一緒にいて行く等安全面に配慮しながら自由な暮らしを支えるように努めている。また近所の店舗の方が協力して見守ってくださっている	職員会議の中で拘束についての話し合いを行い、拘束をしないケアへの取り組みを全員で行っているが、拘束について、職員各自の認識が十分ではない。	職員全員が拘束についての研修を行うことで、禁止対象となる具体的な行為についての理解をすることが求められる。今年度は、各委員会を定め、組織的な取り組みを計画しているので期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は日々の職員のケア状況を把握し、虐待に繋がる前に職員と面接している。また職員も虐待を理解し、行われることのないようお互いに注意し合っている。		

事業者名:グループホームふくすけ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見が必要なケースでは管理者が社会福祉協議会と連携し関わるようにしているが、他職員は理解していない。その為必要な時に支援出来る体制が万全とは言えない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には施設のケアに関する考え方や取り組み、退去を含めた施設の対応可能な範囲について説明を行っている。ご家族からも出来る限りケアへの希望を頂き、施設での生活がより良いものになるように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族にはメッセージや面会時に声をかけ話やすい雰囲気作りの努力している。出された意見はケアカンファレンスで話し合い日頃のケアに反映させている。	アンケートをとり、家族が一番参加できる時期に家族の集いを開催している。また、夏祭りや忘年会などに家族の参加を呼びかけ、家族との交流を大切に、その中で出された意見や要望などを運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃から職員とコミュニケーションを図るように心がけ利用者様との日常的な関わりの中で生まれる職員の気づきやアイデアを問いかけたり聞くようにして運営に反映させている	ミーティングや月1回の職員会議で、処遇や接遇改善についての話し合いを行っている。また、年2回の個別面談を行い、賞与は、管理者が手渡しをして、意見を聞く機会としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は現場で起きている状況や変化を知り職員の努力や成果について把握評価している。また健康診断の実施等職員の心身の健康を保つ為の対応を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は研修の情報を収集し、施設外での研修には職員全員が受講出来るように計画を立て実行している。研修受講者にはケアカンファレンス時に発表してもらい、知識の共有を図っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	保健所主催の臼津グループホーム交流会に参加し意見の交換を行いサービスの質の向上に努めている		

事業者名:グループホームふくすけ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で生活状態を把握するように努め、利用者様によっては、お試し入所という形式を取っていただき、本人のニーズや不安、思いを理解するように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と本人様の思いの違い、ご家族のこれまでの体験等の話をじっくり聞き、これからの対応の話し合いを行うようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族に思い、状況を確認し、改善に向けた支援の提案、相談を繰り返し、必要なサービスへつなげていけるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様とたくさんの会話をもち時間をかけてより深いか関わりを持ち思いを共感し、共に支えあえる関係作りに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の日頃の状況を毎月の担当者の手紙や施設の新聞で報告している。来所時はご本人との時間を邪魔しないように配慮しながら、ご家族に声をかけ、ご本人の状況を伝えるように努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行き着けの美容室の行ったり、レクでのドライブで、自宅近くやなじみの地域へ出掛けるようにしている	今までの生活習慣や馴染みの関係などを記録することにより職員全員で共有し、コーヒーやお酒を飲みに行く、美容院や墓参り、自宅訪問など、個々に応じた支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり、相談に乗ったり、みんなで楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる場面作りをするなど、利用者同士の関係が上手いくように努めている。		

事業者名:グループホームふくすけ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や病院等へ移られた方にもこれまでの生活状況、支援の内容、注意が必要な点等情報提供を行い、本人の生活の継続性を損なわないように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声かけを十分に行い把握に努めている。言葉や表情等から察するように努めている。意思疎通が困難な方にはご家族から情報を得るようにしている。	日々の関わりの中で声かけを行い、また、家族や本人と話し合い、利用者本人の視点に立った希望や意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話を繰り返すことで、ご本人より新しい情報を聞くことが出来たり、ご家族が会話の中で思い出された内容を職員で共有するように努めている。ご家族によってはプライバシー保護を重要と考えられているので細心の注意を払っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの生活リズムを理解し本人の全体像を把握している。ご家族様からの情報だけに頼らず、本人の生活の中で出来ることを見つけるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族に日々の関わりの中で意見を聞き反映させるようにしている。その人らしく暮らし続ける為に必要な支援を盛り込んだ介護計画を作成出来る様にもモニタリングや毎月ケアカンファレンスをおこなっている。	職員会議でケアカンファレンスを行い、家族や本人の意向を反映させるようにしている。遠方の家族にはケアプランを郵送し、意向を聞き、作り直すこともある。月に1回、職員全員でモニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルは常時記録。手書きにて行った日々の記録をPC入力し、情報が必要な時は随時開くことが出来る。情報の共有についてはノート、朝礼時の申し送り、ホワイトボードにて伝達している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の通院等必要な支援は柔軟に対応し、出前等の要望があれば個別、施設全体で行い、昔を思い出していただく為におやつ作り等通して生活的に支援している		

事業者名：グループホームふくすけ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隔月にて運営推進会議に市役所、包括支援センター、民生委員、区長に参加していただくことで、関係が強化され、周辺情報や支援しかんする情報交換、協力関係を築けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の意向を確認し、定期的な受診を家族の同行が可能であれば行い希望される医療機関の相談があればかかりつけ医と連携して支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。基本的に家族同行となっているが、往診や職員同行などもあり、医療機関との連携を密にしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々利用者様に目を向けちよとした異変も見逃すことがないように注意し、気になったことはハウレンソウシートに記載したり、看護師に直接報告し適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合介護要約を早急に記載し病院に適切な情報を提供するようにしている。また面会時には病院職員から治療経過を聞き、退院の目処が付いた場合は早急に施設での受け入れ体勢を整えていく。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族に1年に1回または必要に応じて面接を行い緊急時の対応や今後の方針等を話し合うようにしている	ターミナル期についての指針を定め、共有している。状態に応じて、医師、家族、事業所で話し合いを行い、安心して納得した最後を迎えられるよう、チームで取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	11月には救急法講習会を消防署より来ていただき全職員せ受けている。AEDを用い救急車の到着までの自分たちで行える救命救急の講義を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	開所よりほぼ毎月消防訓練を実施。毎年10月には消防署立会いの消防非難消火訓練を実施。運営推進会議にて自治体や地域に協力を呼びかけている	年2回、消防署の協力を得て、訓練を実施すると共に、事業所独自の避難訓練を実施しており、運営推進会議や区長、コンビニなど、地域に協力を呼びかけている。	

事業者名:グループホームふくすけ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わりにおいて、ご本人の気持ちや自己決定を大切にするように努めている。個人情報収集する際も提供する場合も守秘義務の理解に努め慎重に取り扱うようにしている	接遇やプライバシー保護についての研修を行い、特に、大きな声や高圧的な声かけをせず、個々の尊厳を大切にしたケアを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人に合わせて声かけを行い、意思表示が困難な方には表情や、筆読等でご本人の意思が生かされるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り本人の希望やサインを読み取り、実施するように努めている。しかし、入浴や行事、スタッフの人数や都合で決めていることも少なくない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のこだわりのスタイルを把握し、ヘアカラーを行う等その人らしさを保てるようなケアを行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき等昔を思い出し行えるような援助を行っている。しかし利用者様の介護の重度化に伴い、職員が共に食事を取ることは困難となった。	3食は事業所内で作り、1人ひとりに合った食事形態で提供されているが、職員が同じテーブルを囲み食事を味わうなどの家庭的な雰囲気作りがなされていない。	日常生活の中で「食」を通じた取り組みができるよう、家庭的な楽しい食事について、職員間で今一度話し合い、支援を行っていくことが期待される。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と一日の摂取量を把握している。個別に栄養補助食品を飲用されている方もいるが、これだけに頼らず好きなもの食べやすいものと色々工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方声かけ見守りをし、出来ない方に関しては毎食後の口腔ケアを行い誤嚥性肺炎防止に努めている。		

事業者名:グループホームふくすけ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の身体状況に応じて介助を行う。尿意のない利用者にも時間を見計らってトイレ誘導、介助。紙パンツ、パッド、オムツ類も本人に合わせて検討している	個々に応じて、リハビリパンツやパットなどを検討しており、排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行うなど、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し、水分補給や繊維質の多い食材を提供したり、腸の動きを良くするため体を動かしたりしている。疾患で問題のある方は主治医と連携を持ち内服コントロールを行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴中は常に利用者様に話しかけ安心して安全を保てるようにしている。ただ時間は職員の都合に合わせていただいております、職員で変更に向けて話し合っています。	お風呂は毎日沸かし、利用者は2日に1回、午前中に入浴と決めているが、職員の都合に合わせているため、個々に合った入浴支援となっていない。	利用者の生活習慣や、その希望に合わせた入浴の支援ができるよう、職員のローテーションを工夫することが期待される。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し一人ひとりの体調や表情等ゆっくり休息が取れるように支援しておく。寝付けない時は話を聞いたりお話をする等工夫している。眠剤を使用されている方は日中の様子も注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や処方箋を整理し職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は飲める方には手渡し見守り、困難な方には介助し、確実な内服を確認している。状態変化が見られるときは看護師に報告しすぐに対応できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるように、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの習慣や楽しみに合わせて、コーヒーを飲みに行ったり、外食したり、ドライブしたり、買い物に行ったり、家族との外出にも柔軟な対応を行っている	事業所の近くにコンビニや喫茶店、レストランがあり、日常的に出かけている。また、ドライブや墓参りなど、家族と協力しながら、希望に沿って柔軟に支援をしている。	

事業者名：グループホームふくすけ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談し小額のお金を持っている方もいる。施設が管理している方でも外出した際は手渡し自分でお金を払っていただくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族とのつながりは大切に考え、希望時等は電話で話ができる体制をとっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じていただく為に季節ごとに飾りつけを変えたり壁の写真や張りを替えたりしている。玄関やリビングには熱帯魚を飼育した水槽がおいである	テーブルやソファの配置、熱帯魚の水槽、フロアの飾り付けなど、季節感があり、ゆったり過ごせる配慮が見られる。ユニット間も自由に行き来している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士でゆっくり話せるスペースやゆっくり好きなテレビを見ることができるスペースがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や馴染みのあるものを持ち込まれている利用者様もあり、持ち込みが少ない方も職員が居室内の壁を飾ったりして居心地良い生活ができる様に支援している。	利用者の思い出の品や写真などが持ち込まれ、居心地の良い雰囲気となっている。持ち込みの少ない方は、職員と本人が話し合いながら、落ち着いた居心地よく過ごせるための支援を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の状況に合わせて環境整備を行っている。状況が変化し混乱や失敗が生じた場合はその都度話し合い自立支援に繋がるように支援している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490600022		
法人名	有限会社 ふくすけ		
事業所名	グループホーム ふくすけ 山法師		
所在地	大分県臼杵市大字戸室字長谷1135番地の1		
自己評価作成日	平成22年11月25日	評価結果市町村受理日	平成23年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://ap.oita-kaigo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4490600022&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成23年1月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は認知症はさみしい病氣、一人一人ゆっくり利用者様にあわせよう。をスローガンのもと、認知症は脳の病氣で一人一人の個別ケアを明確にして、ラストステージを彩り鮮やかに送って頂きたいとケアの質にこだわり邁進しています。また、認知症により家庭生活において家族等のいろいろな状況により、ふくすけで生活をしていくことを選択された入居者が今までの家庭生活により近い状態で生活していただくことはもちろん大切ですが、私たちは以前の家庭よりこれからの生活がもっとご本人にとってより充実しその人らしく生活できることを第1に考え一人ひとりを大切にしていきたいと思っています。それとともに地域の方々・民生委員の方々等と運営推進会議においても連携をとっていきます。医療に関しては、協力医院の先生と連携をとり、医師会病院が近隣にあるため緊急の対応ができることも大きなメリットとなっています。今後も皆様に理解をしていただけるなじみのあるグループホームとして地域に根ざしていくように努めていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【1ユニット目に記載】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践にしている	朝礼時(申し送り)に出勤全職員にて理念を復唱し、日々利用者様に関わる際、職員全員で理念を共有し、理念の実践に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩や買い物等に出かけ地域の方々と挨拶を交わしたり関わりを持つようにしている。小学校の一斉下校時施設前の歩道に立ち子供たちと挨拶を交わす等行うようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者だけでなく職員も地域の研修、会合に関わりながら、認知症ケアの啓発に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の運営推進会議で取り上げられた事項について、その経過を報告している。施設での困難事例等もプライバシーは守りながらも各職種からの意見を頂きケアに反映させている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市職員にご参加頂き、困難事例や、不明なことはその都度連絡し助言を頂きながら、連携を取っている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者が外出しそうな様子を察知したら、可能な限り止めるのではなくさり気なく声をかけたり一緒について行く等安全面に配慮しながら自由な暮らしを支えるように努めている。また近所の店舗の方が協力して見守ってくださっている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は日々の職員のケア状況を把握し、虐待に繋がる前に職員と面接している。また職員も虐待を理解し、行われることのないようお互いに注意し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見が必要なケースでは管理者が社会福祉協議会と連携し関わるようにしているが、他職員は理解していない。その為必要な時に支援出来る体制が万全とは言えない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には施設のケアに関する考え方や取り組み、退去を含めた施設の対応可能な範囲について説明を行っている。ご家族からも出来る限りケアへの希望を頂き、施設での生活がより良いものになるように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族にはメッセージや面会時に声をかけ話やすい雰囲気作りの努力している。出された意見はケアカンファレンスで話し合い日頃のケアに反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃から職員とコミュニケーションを図るように心がけ利用者様との日常的な関わりの中で生まれる職員の気づきやアイデアを問いかけたり聞くようにして運営に反映させている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は現場で起きている状況や変化を知り職員の努力や成果について把握評価している。また健康診断の実施等職員の心身の健康を保つ為の対応を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は研修の情報を収集し、施設外での研修には職員全員が受講出来るように計画を立て実行している。研修受講者にはケアカンファレンス時に発表してもらい、知識の共有を図っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	保健所主催の臼津グループホーム交流会に参加し意見の交換を行いサービスの質の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で生活状態を把握するように努め、利用者様によっては、お試し入所という形式を取っていただき、本人のニーズや不安、思いを理解するように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と本人様の思いの違い、ご家族のこれまでの体験等の話をじっくり聞き、これからの対応の話し合いを行うようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族に思い、状況を確認し、改善に向けた支援の提案、相談を繰り返し、必要なサービスへつなげていけるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様とたくさんの会話をもち時間をかけてより深いか関わりを持ち思いを共感し、共に支えあえる関係作りに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の日頃の状況を毎月の担当者の手紙や施設の新聞で報告している。来所時はご本人との時間を邪魔しないように配慮しながら、ご家族に声をかけ、ご本人の状況を伝えるように努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行き着けの美容室の行ったり、レクでのドライブで、自宅近くやなじみの地域へ出掛けるようにしている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話しを聞いたり、相談に乗ったり、みんなで楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる場面作りをするなど、利用者同士の関係が上手いくように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や病院等へ移られた方にもこれまでの生活状況、支援の内容、注意が必要な点等情報提供を行い、本人の生活の継続性を損なわないように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声かけを十分に行い把握に努めている。言葉や表情等から察するように努めている。意思疎通が困難な方にはご家族から情報を得るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話を繰り返すことで、ご本人より新しい情報を聞くことが出来たり、ご家族が会話の中で思い出された内容を職員で共有するように努めている。ご家族によってはプライバシー保護を重要と考えられているので細心の注意を払っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの生活リズムを理解し本人の全体像を把握している。ご家族様からの情報だけに頼らず、本人の生活の中で出来ることを見つけるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族に日々の関わりの中で意見を聞き反映させるようにしている。その人らしく暮らし続ける為に必要な支援を盛り込んだ介護計画を作成出来る様にもモニタリングや毎月ケアカンファレンスをおこなっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルは常時記録。手書きにて行った日々の記録をPC入力し、情報が必要な時は随時開くことが出来る。情報の共有についてはノート、朝礼時の申し送り、ホワイトボードにて伝達している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の通院等必要な支援は柔軟に対応し、出前等の要望があれば個別、施設全体で行い、昔を思い出していただく為におやつ作り等通して生活的に支援している		

事業者名:グループホームふくすけ 山法師

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隔月にて運営推進会議に市役所、包括支援センター、民生委員、区長に参加していただくことで、関係が強化され、周辺情報や支援しかんする情報交換、協力関係を築けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の意向を確認し、定期的な受診を家族の同行が可能であれば行い希望される医療機関の相談があればかかりつけ医と連携して支援している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々利用者様に目を向けちょっとした異変も見逃すことがないように注意し、気になったことはハウレンソウシートに記載したり、看護師に直接報告し適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合介護要約を早急に記載し病院に適切な情報を提供するようにしている。また面会時には病院職員から治療経過を聞き、退院の目処が付いた場合は早急に施設での受け入れ体勢を整えていく。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族に1年に1回または必要に応じて面接を行い緊急時の対応や今後の方針等を話し合うようにしている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	11月には救急法講習会を消防署より来ていただき全職員せ受けている。AEDを用い救急車の到着までの自分たちで行える救命救急の講義を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	開所よりほぼ毎月消防訓練を実施。毎年10月には消防署立会いの消防非難消火訓練を実施。運営推進会議にて自治体や地域に協力を呼びかけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わりにおいて、ご本人の気持ちや自己決定を大切にするように努めている。個人情報収集する際も提供する際も守秘義務の理解に努め慎重に取り扱うようにしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人に合わせて声かけを行い、意思表示が困難な方には表情や筆読等でご本人の意思が生かされるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り本人の希望やサインを読み取り、実施するように努めている。しかし、入浴や行事、スタッフの人数や都合で決めていることも少なくない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のこだわりのスタイルを把握し、ヘアカラーを行う等その人らしさを保てるようなケアを行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき等昔を思い出し行えるような援助を行っている。しかし利用者様の介護の重度化に伴い、職員が共に食事を取ることは困難となった。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と一日の摂取量を把握している。個別に栄養補助食品を飲用されている方もいるが、これだけに頼らず好きなもの食べやすいものと色々工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方声かけ見守りをし、出来ない方に関しては毎食後の口腔ケアを行い誤嚥性肺炎防止に努めている。		

事業者名:グループホームふくすけ 山法師

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の身体状況に応じて介助を行う。尿意のない利用者にも時間を見計らってトイレ誘導、介助。紙パンツ、パッド、オムツ類も本人に合わせて検討している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し、水分補給や繊維質の多い食材を提供したり、腸の動きを良くするため体を動かしたりしている。疾患で問題のある方は主治医と連携を持ち内服コントロールを行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴中は常に利用者様に話しかけ安心して安全を保てるようにしている。ただ時間は職員の都合に合わせていただいております、職員で変更に向け話し合っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し一人ひとりの体調や表情等ゆっくり休息が取れるように支援しておく。寝付けない時は話を聞いたりお話をする等工夫している。眠剤を使用されている方は日中の様子も注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や処方箋を整理し職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は飲める方には手渡し見守り、困難な方には介助し、確実な内服を確認している。状態変化が見られるときは看護師に報告しすぐに対応できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるように、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの習慣や楽しみに合わせて、コーヒーを飲みに行ったり、外食したり、ドライブしたり、買い物に行ったり、家族との外出にも柔軟な対応を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談し小額のお金を持っている方もいる。施設が管理している方でも外出した際は手渡し自分でお金を払っていただくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族とのつながりは大切に考え、希望時等は電話で話ができる体制をとっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じていただく為に季節ごとに飾りつけを変えたり壁の写真を張り替えたりしている。玄関やリビングには熱帯魚を飼育した水槽がおいである		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士でゆっくり話せるスペースやゆっくり好きなテレビを見ることができるスペースがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や馴染みのあるものを持ち込まれている利用者様もあり、持ち込みが少ない方も職員が居室内の壁を飾ったりして居心地良い生活ができる様に支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の状況に合わせて環境整備を行っている。状況が変化し混乱や失敗が生じた場合はその都度話し合い自立支援に繋がるように支援している		